

発災とともに駆けつけ、
協働で支援し、
被災者に寄り添う

～災害ボランティア・NPOの先達紹介～

各地で災害が発災した際、いち早く被災地に駆けつけ、災害ボランティアセンターや社協と連携・協働を進め、被災者への支援を行うボランティア・NPOの活動を紹介します。

第11回

被災地NGO協働センター

ホームページ：<http://ngo-kyodo.org/>

Facebook：<https://www.facebook.com/KOBE1.17NGO/>

よりまさ りょうた

頼政 良太 被災地NGO協働センター 代表

1988年広島県広島市生まれ。2007年、神戸大学入学と同時に中越・KOBE足湯隊(現：KOBE足湯隊/事務局：被災地NGO協働センター)として災害ボランティア活動を始める。その後、中越沖地震、東日本大震災など計25以上の国内の災害救援活動に従事。
2011年4月より被災地NGO協働センタースタッフ。2015年5月より同代表。



「最後の一人まで」をモットーに、被災地域の自立に寄り添った支援を心がける

被災地NGO協働センターは兵庫県神戸市を拠点に、海外での災害救援活動を含め、さまざまな被災地の復興に携わりながら地域の自立を支える支援活動を行っている団体です。阪神・淡路大震災の発生直後にNGO救援連絡会議の分科会の一つ「仮設支援連絡会」として立ち上がり、1998年4月より現在の名称に変更され活動を行っています。

災害発生直後には被災地にスタッフ派遣を行い、被害状況の調査活動や、避難所の整備、被災した家屋の片付け、家財の運び出し、技術系のニーズが必要であれば水害時の壁がし等のサポートや、ブルーシート貼りなど幅広く被災者の生活再建をめざした支援を行っています。その他、災害ボランティアセンター(以下、災害VC)の運営補助や、運営面でのアドバイスを行うなど災害VCの良きパートナーとして活動する場面もあります。

また、さまざまな被災地での経験から、地元主体



熊本地震・西原村災害ボランティアセンターでの会議の様子

となるよう拠点を被災地におき、息の長い被災地の復興をめざした支援も行っています。2016年熊本地震では、西原村災害VCの立ち上げ支援や運営をサポートし、被災者の生活再建が進むよう被災地支援を行いました。その後、復興に向けてどのような「暮らし」をめざし、新たな地域づくりを行うのか、西原村の住民とともに、地域内の話し合いや勉強会に参加しながら考えるお手伝いをしています。地域住民の皆さんが納得した復興が進むことを第一に考えた支援を行っています。

被災者に寄り添った支援 「足湯ボランティア」「まけないぞう」

被災地NGO協働センターでは、避難所や被災地のサロン活動の現場等で、「足湯ボランティア」に取り組んでいます。足湯ボランティアとは、被災された方の肉体的な疲労度を下げることが目的に行い、ボランティアが被災者の足を10～15分お湯につけ、手でさするボランティア活動です。被災者とボランティアが1対1で関わることから、被災者の不安や悩みを聞きとります。会話のなかには困りごとが隠れていることもあり、必要に応じて災害VCや、他の災害支援団体につなげるなどを行います。ほかに



足湯ボランティアの様子



まけないぞう

も、阪神・淡路大震災後1997年から始めた「まけないぞう」(※)など幅広く被災者支援に関わっています。

※ 阪神・淡路大震災後、1997年に仮設住宅で暮らす方々の生きがいづくりや、コミュニティの場づくりを目的に、被災者自身が手作りの“ぞう”の形をした壁掛けタオル「まけないぞう」の製作事業。東日本大震災の際にも、活動を行いました。

最近の主な被災地支援活動

・日本での被災地支援

令和4年台風15号(2022年)、令和3年佐賀豪雨(2021年)、令和2年7月豪雨(2020年)、令和元年佐賀豪雨(2019年)、西日本豪雨(2018年)、九州北部豪雨(2017年)、熊本地震(2016年)、東北・関東豪雨災害(2015年)、丹波市水害(2014年)、広島土砂災害(2014年)、山口・島根豪雨(2013年)、九州北部豪雨(2012年)、宮崎県・新燃岳噴火災害(2011年)、東日本大震災(2011年)、山口県・山陽小野田市水害(2010年)、兵庫県佐用町水害(2009年) ほか

・海外での被災地支援

エルサルバドル地震(2001年)、インド西部大地震(2001年)、中国雲南省地震(2000年)、モザンビーク大水害(2000年)、モンゴル大水害(2000年)、メコンデルタ水害(2000年) ほか 現在はNPO法人CODE海外災害援助市民センターで海外の災害支援を実施中